



# みみだより

No.28

鳥取聾学校ひまわり分校

R3.10.8

文責：迫田

イチヨウの葉も少しずつ秋の色になり、2学期の大きな行事であるひまわり発表会が3週間後に迫ってきました。役割も決まって練習もスタートしています。幼稚部も小学部も、学習の成果を発表できる機会に向け、ドキドキワクワクしながら、日に日に練習に熱が入ってきています。楽しみですね。



## 「ききまちがい」や 発音 について

### きこえにくさのある男児の会話



「お兄さん」を「おじいさん」ときき間違えたようです。会話が成立しているようにみえますが、実際には、ほんの一部の音のきき間違いにより、根本的な誤解が生じます。「きこえているはずなのに」と誤解されやすい例です。

『クイズで学ぶことばの教室基本の「キ」』  
著 高川康 学苑社 2017年発行 より



### ワンポイント手話

探す

趣味

「手話のイラスト by シュワリン」より

### ～聴覚と発音の関わり～

難聴のある子ども達の発音は様々であり、一つにくることはできませんが、歪み、置換、省略、プロソディー（リズム、イントネーション、強勢、韻律）の問題等が生じます。一般的に、難聴の程度（聴カレベル）が重度になるほど発音の不明瞭さが増しやすいようです。難聴であることにより、想定される原因は

- 手本となる音を正確にきき取れない。
- 自分の発音を正確にモニターできない。
- 語を間違えて覚えている。

などです。

難聴のある子ども達の発音改良において 特に考慮すべき点は、子ども達のニーズと負担についてです。補聴器の調整などによってきき取りが改善し、それに伴って発音が明瞭になっていく場合もありますが、聴覚やそれ以外の手段を用いて学習を積み重ねなければならない場合があります。そのような際に、子どものニーズ、子どもの気持ちや理解はどうなのか、負担がかかりすぎないかなど、慎重に検討されるべきだと思われます。

まず、声を出すことが楽しかったり心地良い体験として感じ取れたりする必要があります。また、手話や指文字等のコミュニケーション手段を、子ども達を取り巻く人々が身につけることによって、伝え合いを互いに補償しようとする働きかけも大切になります。

全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会  
『きこえことば研修テキスト第2版』より